

資料8

「未来の暮らし創造塾」ライフスタイルデザイン成果

あきたスマートシティ・プロジェクト成果報告会

場所: 秋田市正庁

平成28年3月23日(水)

【目次】

- 1 共に生きる仲間をつくり協力し合う暮らし…【発表】
- 2 除雪を満喫する暮らし…【発表】
- 3 時間制在宅勤務による子育てを支援する暮らし…【発表】
- 4 高齢者と子どもの交流により、地域が活性化される暮らし
- 5 それぞれが出来ることを持ち寄り、雪を通じて、地域の交流を深める暮らし
- 6 ICTを活用し、季節によってエネルギー使用の少ない空間に移動して仕事を行う暮らし
- 7 地元の食材を交換する暮らし
- 8 地域の自然環境をみんなで守りながら愛着と絆を深めていく暮らし
- 9 学校で新たな知識が広がり元気に学ぶ暮らし
- 10 家族を思って竹のスプーンを作る暮らし
- 11 登り窯を中心として地域住民が協働する暮らし

ライフスタイル事例：共に生きる仲間をつくり協力し合う暮らし

<問題設定> *核家族の増加、夫婦共稼ぎ世帯の増加により、家庭の中で子ども達がしつけや社会のマナーを学ぶ機会が少なくなっている。
 *親や学校から何でも「与えられる」生活で、自ら考え工夫することが少なくなっている。
 *2030年の地球は気候変動が激しく、どのような環境下でも生きる力を養うことが求められる。

<実現における制約>
 ・親が見知らぬ高齢者に子どもを預けるためには、何らかのしつけが必要。
 ・子ども達は1年間もの間、親元を離れて暮らすことができるかが課題。

<ライフスタイルの概要>

首都圏の子ども達は秋田市の農村地区で、秋田市の子ども達は他の地方都市で、親元を離れて1年間暮らします。「子ども達の未来創造塾」と名付けられたこの集団生活の中で、共に生きる仲間をつくり、協力し合うことや助け合うことを学ぶことで、子ども達の将来にわたる心の豊かさにつながります。また、将来、姉妹都市から秋田市に移住するしゅみを整えます。

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> 首都圏の子ども達を秋田市に受け入れる体制づくり（モデル農家の設定） 夏休みなどの期間を限定 	<ul style="list-style-type: none"> 秋田の子ども達を地方都市へ送る 秋田市の受入農家を増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 期間を1年間に延長 姉妹都市間の流れを作る

<新規事業案>



<政策案>

- * 受入農家への支援
- * 姉妹都市との連携
- * 将来の移住者への優遇制度

<技術要素>

- * 成長記録の発信（リアルタイムで子供たちの様子がわかる仕組み）
- * 成長指標の設定（保護者が子どもの成長を実感できる指標づくり）

ライフスタイル事例：除雪を満喫する暮らし



<問題設定>

- ・例年、除雪費用に10億円前後、雪が多い年はそれ以上、除雪に対し費用を投じている。
- ・市民は快適さを求めるあまり、生活空間にある雪をジャマもの扱いし、排除している。
- ・原油価格の上昇も予想されることから、除雪車に関しても、必要最低限の運転が求められるようになっていくと思われる。

<ライフスタイルの概要>

昔から秋田県は雪国で、本来、雪はあって当たり前。
これからは、童心にかえり、道路にある雪自体を活用し、雪だるまやかまくら等を作りながら、除雪する生活を楽しもうという暮らし

<実現における制約>

- ・道路管理者の許可が必要
- ・道路に面する住民の理解が必要
- ・この道路でも出来るわけでないので、ある程度の制度設計が必要
→バス路線や幹線道路、さらに狭隘道路は不向き

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
・試験的に実施可能な学区内を選定。実際に雪像づくりに着手。	・1年目の対象範囲を拡大し、町内全体の取組が可能か検証。	・2,3年目の検証を経て、町内会イベントとして実施。 ・町内会イベントが軌道に乗った後、全市的な取組としての実証試験を開始

<新規事業案>

【ステップ2…小さな手から大きな手へ拡大】

最初は通学路沿線だった取組が町内全体の取組になり、町内単位の雪祭りが開催されるようになる。



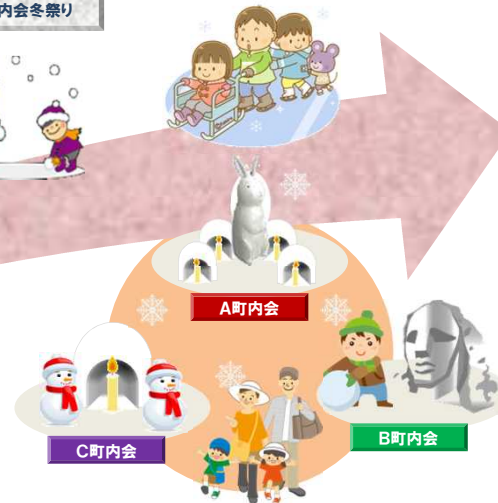
〇〇町内会冬祭り



現状

【ステップ1…小さな手がつくる楽しむボランティア】

一番雪と接し楽しみながら雪遊びができる児童を対象に、通学路を雪かきしながらミニかまくらづくりや雪像づくりをしてもらう



【ステップ3…楽しむボランティアが全市的な冬のイベントへ】

各々の町内会の取組が全市的な取組へと拡大することになり、除雪費用の削減とともに、冬期間の交流人口の拡大につながるイベントへと成長

<政策案>

- ①除雪費用の削減
- ②地域内コミュニケーションの拡大
- ③地域内イベントの創出
- ④交流人口の拡大

<自然から学ぶ技術>

道路内の雪の除雪が目的であるので、暖冬で雪が少ない場合は、他から搬入しない（自然任せの冬のイベント）。

ライフスタイル事例：時間制在宅勤務による子育てを支援する暮らし

<問題設定>

- * 共働き家庭の増加にともない、親子のコミュニケーション時間が減少している。
- * 子供に仕事をしている背中を見せられる機会が少ない。職種によっては皆無。
- * 化石燃料の枯渇により、企業の光熱費や燃料費が高騰。

<ライフスタイルの概要>

仕事の時間、場所を自由に選択できる新たなワークスタイルにより、仕事の成果を維持しつつ、親子のコミュニケーション時間の創出、自分に合わせたリフレッシュなど、ゆとりのある子育てスタイル・ライフスタイルの実現。

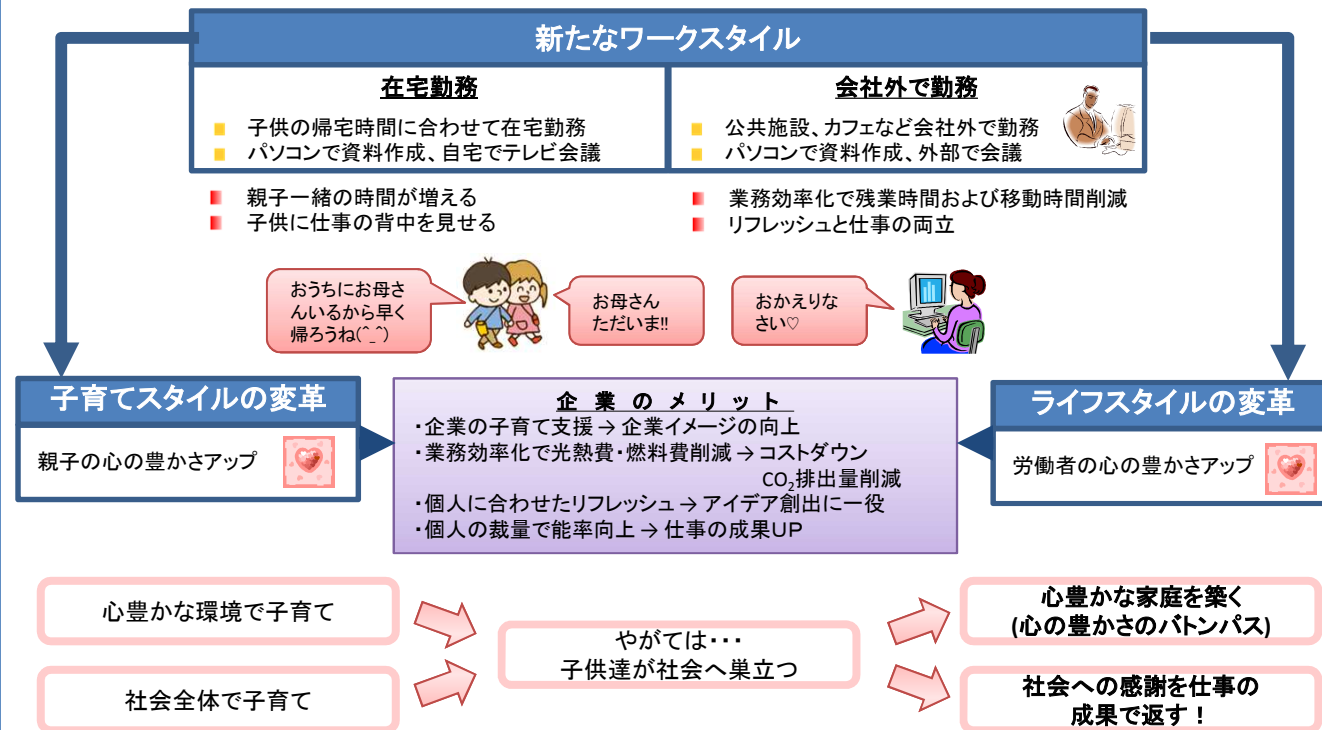
<実現における制約>

- ・在宅勤務中、上司、同僚とのコミュニケーションがなく疎外感を感じる。
- ・職場のチームワーク、コミュニケーションを維持する職場環境づくり。
- ・在宅勤務中の勤務実態が見えない中で、仕事時間の決め方をどうするか。
- ・経営者、労働者の双方にメリットのある制度づくり。

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ調査 ・導入可能な業種の調査 ・在宅勤務による疎外感を解消する手段、技術の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務用 IT ネットワークの構築 ・家以外の勤務場所の導入可能性調査 ・ライフスタイル実証 (心の豊かさ上昇効果とその要因分析) 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業性検討 ・改善 ・継続的ライフスタイル実証 ・導入先検討 ・他のソリューション検討

<新規事業案>



<政策案>

- * 企業への提案
- * 導入企業への支援
- * 外部勤務場所の提供
- * 秋田市試験導入、導入結果の公表

<技術要素>

- * 在宅勤務用、外部勤務用の IT ネットワーク整備および情報セキュリティ対策

ライフスタイル事例：高齢者と子どもの交流により、地域が活性化される暮らし

<問題設定>

- * 現在、本市では高齢者と子どもの交流がイベントとして開催されている。しかし、イベントでは、一年間のうち数回しか交流の機会がない。
- * 高齢者は、歩ける範囲で行われる地域貢献の場を求めていると考える。

<実現における制約>

- 地域で活躍できる場を高齢者が求めているか。
- 高齢や体調不調のため、自主的に運転免許を返納する方が増えるか。
- さまざまな特技を持つ高齢者の確保が可能か。
- 放課後の校舎の使用が、先生達の負担となってしまうか。

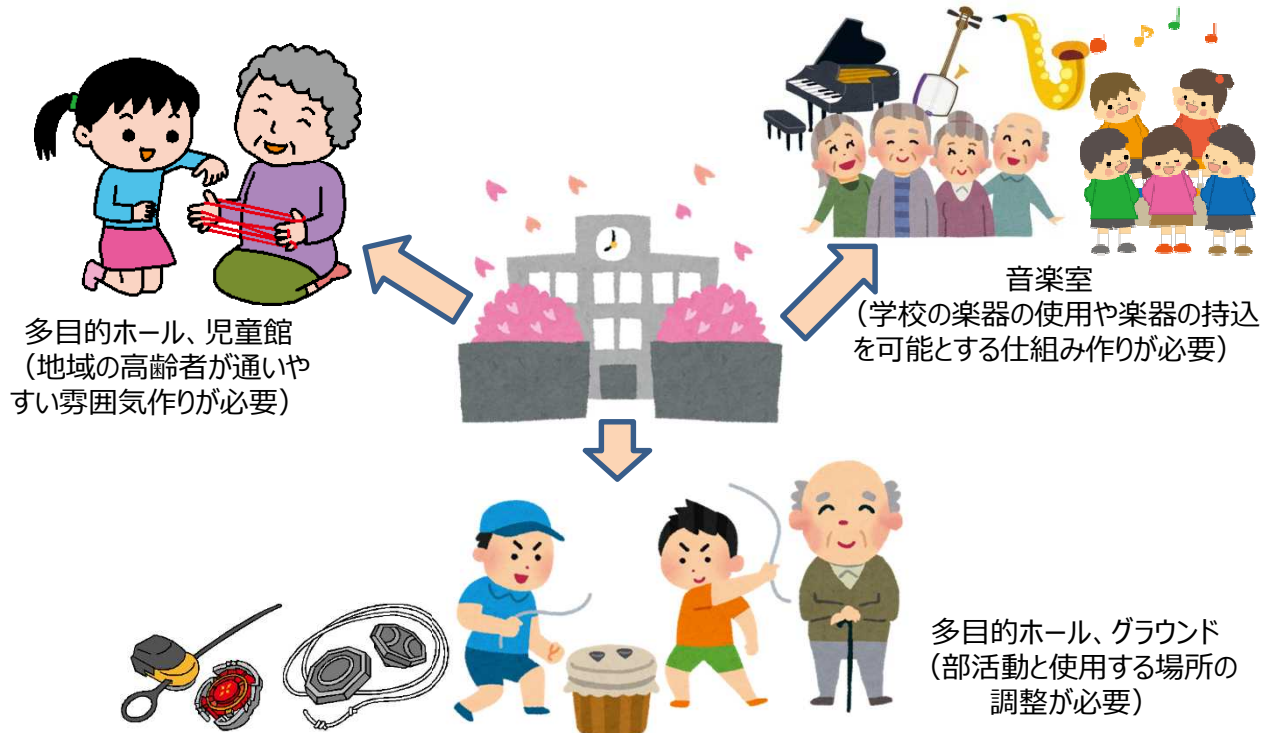
<ライフスタイルの概要>

小学校の放課後、校舎や児童館で、地域の高齢者が先生となって、昔の遊び、楽器の演奏、将棋や囲碁を小学生と一緒に楽しむ（教える）ことで、高齢者の生活に活力を与え、核家族化した世代の子供達にお年寄りを敬う気持ちを育てることができる。
「学び舎」を利用した「遊び舎（遊びの学校）」の開学。

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の児童の活動に関するアンケートを実施 ・当該事業への参加人数の把握 ・当該事業へ協力してくれる小学校の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者のうち、当該事業に協力いただける方を募集する。 ・事業に必要な道具の調達 	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業として、一部の小学校で事業を開始し、効果を検証し、市内全域へ拡大するかを検討する。

<新規事業案> 『遊び舎（遊びの学校）』と題した取組



<政策案>

- * それぞれの遊びの発表会を開催
- * ベーゴマ対ベイブレードの異種対抗戦の開催（いずれは県大会や全国大会へ発展）
- * 高齢者と小学生によるメンバーでの音楽会（学校別での発表会）

<技術要素>

- * 小学校利用のルール改正
- * 1つの学校での取組で終わらずに、複数の小学校へ普及することが望まれる。

ライフスタイル事例：それぞれが出来ることを持ち寄り、雪を通じて、地域の交流を深める暮らし

<問題設定>

- ・雪が降ると、雪かきが大変であったり、公共交通機関のダイヤが乱れる等、負の側面にばかり目がいきがちになっている。
- ・自分が暮らす街の地域性や豊かさに気づくことが出来ずに、あるもの探しではなく、ないものねだりをしてきていた。

<ライフスタイルの概要>

- ・市内7地域のそれぞれで、共助の仕組みを確立して地域の雪かきを行い、それによって、地域の交流を深めるライフスタイル。

<実現における制約>

- ・雪に対するマイナスイメージを実際に払拭することが出来るか。
- ・公共交通網が交通手段の主役となっているか。
- ・共助の考え方が地域に浸透しているか。

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> ・バス停等へのスコップ設置 ・スコップ使用者の行動観察 ・バス券の試行配布 ・ジョセササイズの啓蒙 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域通貨の可能性検証 ・地域通貨のモデル地区での実施 ・協賛企業の発掘 ・雪像・スポーツ大会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイルの定着 ・医療分野との可能性検討 ・効果の検証

<新規事業案>

- ・横断歩道やバス停の傍に、雪かき用のスコップを設置し、善意の雪かき出来る体制を整える。



- ・公園や遊歩道に雪像を作る他、雪かきをスポーツととらえた各種大会を行う。



- ・市民が行うバス停の雪かき頻度に応じて、バス券を提供する。



- ・共助による雪かきの報酬の一部を地域通貨で賄う。



毎冬、試行&失敗を繰り返して地域の交流を深化させる。

<政策案>

- * 雪かきを健康作りとして取り入れるジョセササイズの普及
- * 民間バス会社、社会福祉協議会、国交省等と連携し、バス停等へのスコップを設置
- * モデル地区での雪祭りの実施および地域通貨の導入

<技術要素>

- * 雪かき回数をカウントできるスコップの開発
- * 雪おろしを安全に行うための機械開発

ライフスタイル事例：

ICTを活用し、季節によってエネルギー使用の少ない空間に移動して仕事を行う暮らし

<問題設定>

地球温暖化の問題等により、空調でのエネルギー使用が制限され、自然を利用した仕事空間が必要となっている。

<実現における制約>

- * 紙ベースの資料を持つことができない。
- * 他組織との打合せを面談で行いづらい。
- * 情報のセキュリティ確保が必須である。
- * 近隣で目的にかなった場所の確保が難しい。

<ライフスタイルの概要>

ビルの空調に使用するエネルギーを削減するため、課又は係単位で、季節ごとにエネルギー使用の少ない場所へ移動し、仕事を行う。

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
* 紙ベース資料の削減	* データ管理の制度化	* 実施拡大
* PCを使った会議の試行	* 会議方法の制度化	* 検証の継続
* 情報セキュリティの検証	* 真夏に限定した試行	
* 移動先の調査	* 効果、問題点検証	

<新規事業案>

ウォームシェア



温泉

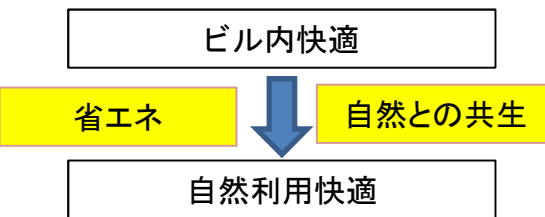


公園、温室



冬

秋



人が移動



春

空き家、貸し部屋



夏



里山、廃校舎、高原



海岸

<政策案>

- * 省エネ賃貸オフィスの支援
- * 廃校舎等の有効活用
- * 省エネワークスタイルコンテスト

<技術要素>

- * 情報セキュリティの確立
- * 仕事のペーパーレス化
- * 自然を活用した省エネオフィスの開発

ライフスタイル事例：地元の食材を交換する暮らし

<問題設定>

- * 食べ物の安全性が課題になってくる。
- * 農業従事者の高齢化や減少により、農地が放置される。

<実現における制約>

- ・農地を管理する農業従事者の発掘
- ・人、量の確保

<ライフスタイルの概要>

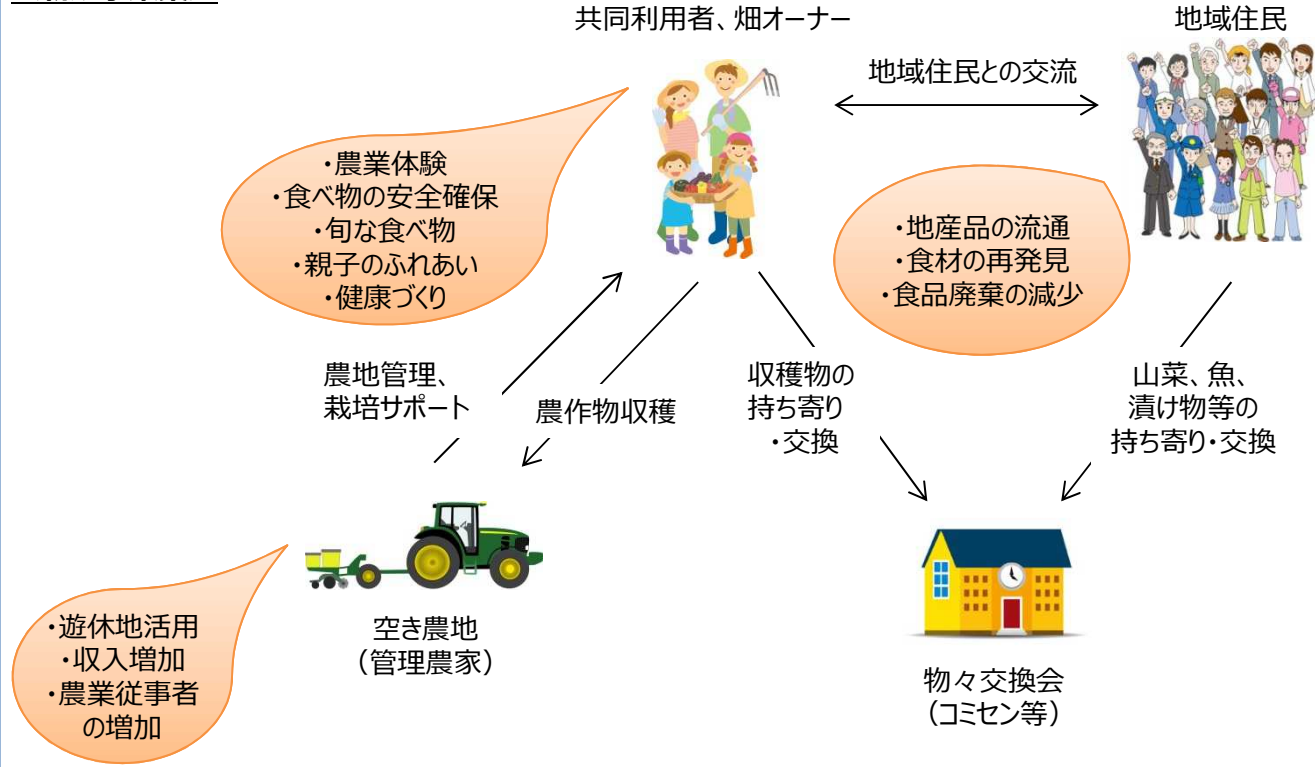
空き農地を地元農家に管理を依頼し、農作物の栽培をしたい人が、共同利用を実施し、未経験者でも栽培できるよう農家がサポートをする。また、農地の一面をオーナー制度を活用し、地元農家の収入の増加につなげる。自家消費できない農産物は、コミセン等で物々交換するライフスタイル。交換する物は、特に定めはなく利用者の価値感で決定する

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
-----	---------	-----

- ・空き農地の確保
- ・共同利用者の募集
- ・農産物の栽培
- ・物々交換会を特別開催
- ・定期開催

<新規事業案>



<政策案>

- * 管理農家への経営支援
- * 農家への指導、相談体制の整備
- * 農業の担い手の育成
- * 物々交換会の場所の提供

<技術要素>

- * 交換会の開催の周知方法 (地域住民にテレビCMが流れるなど)

ライフスタイル事例：地域の自然環境をみんなで守りながら愛着と絆を深めていく暮らし

<問題設定>

* 地域の少子化や予算の制約により、自然公園や登山道の荒廃や、希少植物の採取などによる自然破壊が問題となっている。
 * ライフスタイルの変化により、地域住民同士のつながりが薄れ、地域コミュニティーの崩壊が心配されている。

<実現における制約>

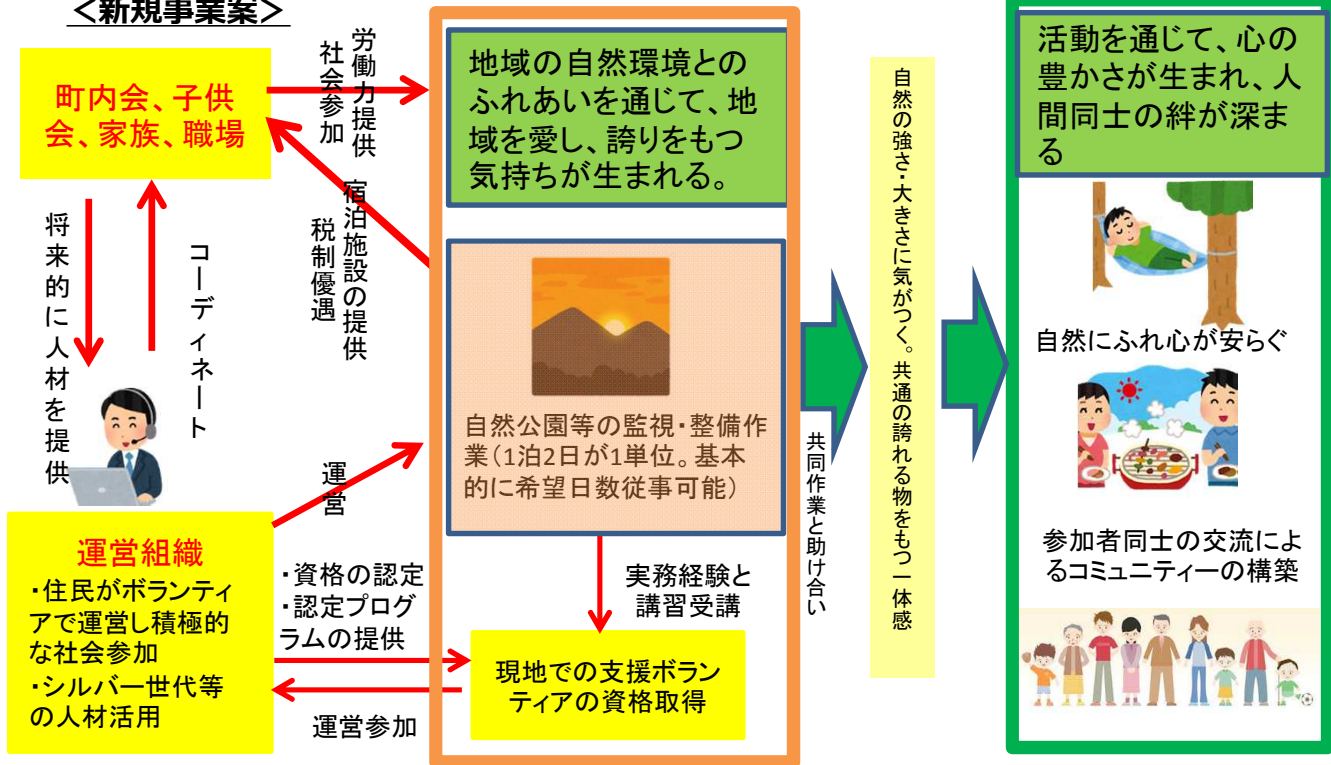
・受け入れ施設の整備と維持管理
 ・トラブルの際の責任関係

<ライフスタイルの概要> 市民が余暇を利用して、行政が管理する自然公園や登山道を監視、整備する業務に従事する。この活動を通して、社会活動へ参加するとともに、地域の良さを認識し地域を愛する気持ちが生まれる。また、業務時間外の活動を通じて、自然のなかでリラックスすることにより心に余裕が生まれるだけでなく、参加者同士のつながりが深まり、新たなコミュニティーが構築される。

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
・日帰り体験会 ・行政がコーディネート ・宿泊施設の整備 ・実施場所の選定	・試験的に実施 ・管理業務をボランティアと協働 ・法令や制度の整備 ・管理組織の設置	・本格的な実施 ・運営をボランティア主体の管理組織に委託

<新規事業案>



<政策案>

* 税制の整備
 * 運営ボランティアの育成、支援制度
 * 制度普及のための町内会等に対する支援制度

<技術要素>

* 事業を運営するシステムの構築
 * 一般市民が実際に作業を行う際に、有効に業務を行う事が出来るような方法やマニュアルの開発

ライフスタイル事例：学校で新たな知識が広がり元気に学ぶ暮らし

<問題設定>

- ・高齢化が進み、健康生涯年齢を維持向上 しなければならない。
- ・“暮らしの知恵”が継承されなくなっている。
- ・独居の高齢者が増加してきて社会とのかかわり策。
- ・人口減少により、高齢者の活躍が求められるようになってきた。
- ・認知症・寝たきり老人の減少の解決策。
- ・地域小学校の児童減少－高齢者との交流

<実現における制約>

- ・学校を利用する許可が必要（空家・空き室利用経費）
- ・指導者・リーダーの育成
- ・物作りや販売のノウハウがない
- ・趣旨に賛同して高齢者が学び舎に集まるか

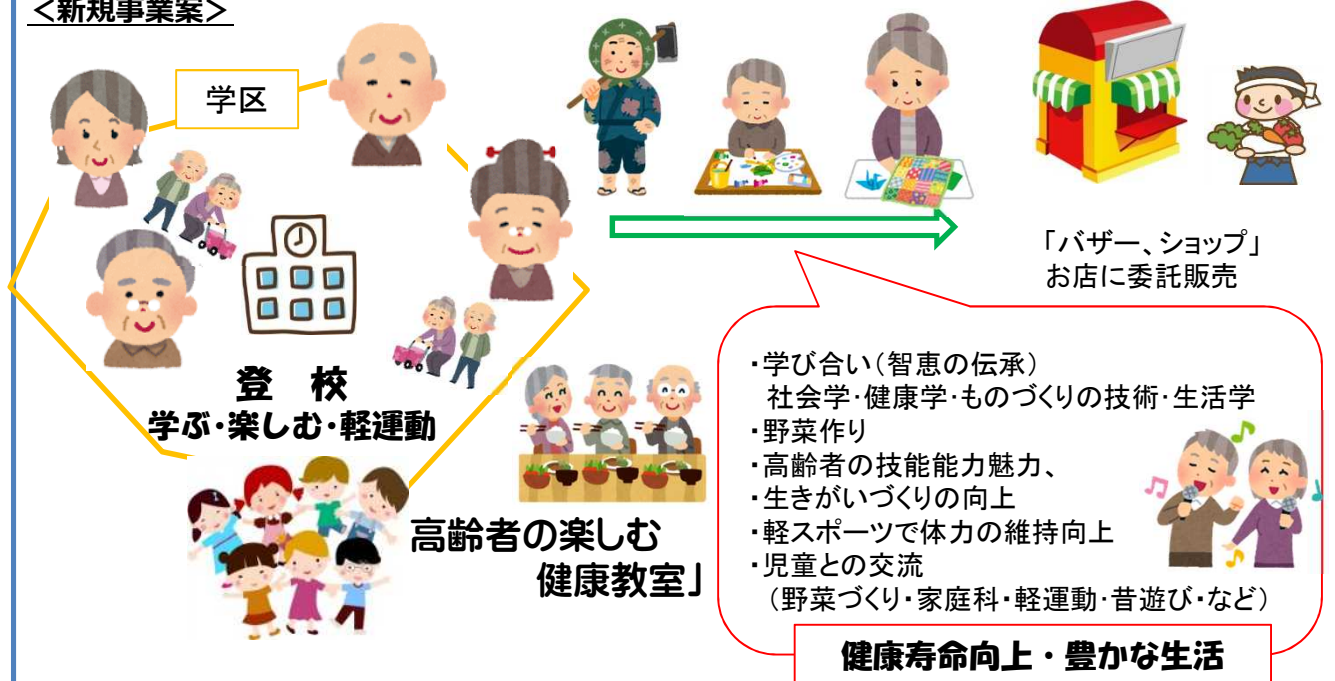
<ライフスタイルの概要>

地域の高齢者が小学校に集い、新しい健康知識を学び、軽スポーツを楽しむ、一緒に服や袋、人形などを作り、出店やバザーなどで販売する「バザーショップ」や、学校での作業を通して子供たちに昔のことを語ったり、インターネットを学んだり、相互に知恵の伝承を行う「楽しむ健康教室」に集い、元気に学ぶ暮らし

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> ・サークルで信頼を得る ・指導者・リーダーづくり ・物作り、販売講習 	<ul style="list-style-type: none"> ・科目を増やす ・知識・体力の向上 ・商品の試作、販売 	<ul style="list-style-type: none"> ・資質の向上

<新規事業案>



<政策案>

- ・社会福祉・生涯教育・保健指導など、統一的に組織的、行政で進める
- ・マイカードを配布して個人の情報データを管理する
- ・地域によっては空家・空き室
- ・認知症・寝たきり老人の減少策

<技術要素>

- ・指導者・リーダー資質向上
- ・個々の楽しみ・生きがいづくり・体力の維持向上
- ・集団・グループで知識の共有・向上で活力を生み出す

ライフスタイル事例：家族を思って竹のスプーンを作る暮らし

<問題設定>

- * 石油製品へ過度に依存している。
- * 乳児や老人の世話という人生の末端に関わる人が、社会から隔離されがち。
- * 既製品に囲まれた生活で、自らを表現する場が少ない。

<実現における制約>

- 竹の確保
- 作ったスプーン的安全性確保
- デザイナーの確保
- 作業中のけが

<ライフスタイルの概要>

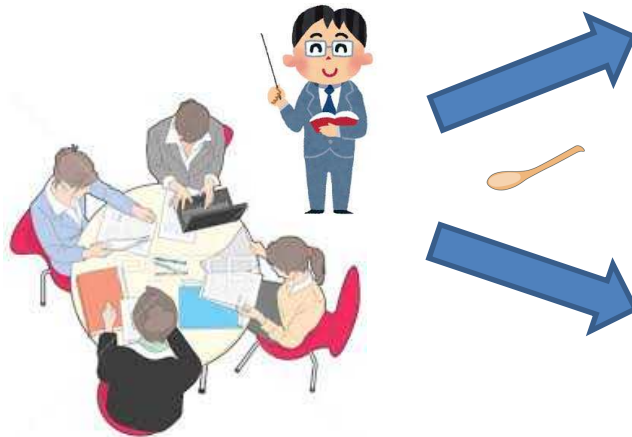
乳児や老親のお世話をするときに使用するスプーンを、一流のデザイナーの指導の下、竹で手作りする。材料は、地元の竹林から採取。月一回ほど、地元公民館で講習会を開き、みんなでスプーン作りをするともにわいわい情報交換する。

<ロードマップ>

1年目	2年目・3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区の制定 ・講習会の実証実験 ・検証 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品展示会 ・新規地区の制定 ・講習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2年目以降繰り返し

<新規事業案>

一流デザイナーの下、スプーンを作る



- ・共同で作業をすることにより生まれる連帯感
- ・自己表現
- ・お世話する相手を思いやる時間
- ・情報交換



- ・家族が作った、体に合ったスプーンで食事する。
- ・お世話するよろこび。

<政策案>

- * 既存コミュニティへの提案
- * デザインを指導する講師の雇い上げ
- * 講習会準備

<技術要素>

- * 参加者の加工技術

ライフスタイル事例：登り窯を中心として地域住民が協働する暮らし

＜問題設定＞

* 森林資源が豊富にあり、昔は校舎や住宅の建て替えに使われたり、間伐材は炭燃料として用いられてきたが、現在は活用されていない。
 * 人口減少、少子高齢化に伴い、地域のお祭りがなくなるなど、地域の協働イベントが減り、これまで以上に人と人の繋がりが重要になってきている。
 * 地球温暖化や化石燃料の奪い合いにより、地産エネルギーの利活用がさらに求められるようになってきている。

＜実現における制約＞

* 「めぐみシェアクラブ」の仕組み、体制が整備されていない
 * 森林の間伐や搬出、加工などのほか、情報発信や連絡調整に関する知見が蓄積されていない
 * 森林資源の活用コストが高い

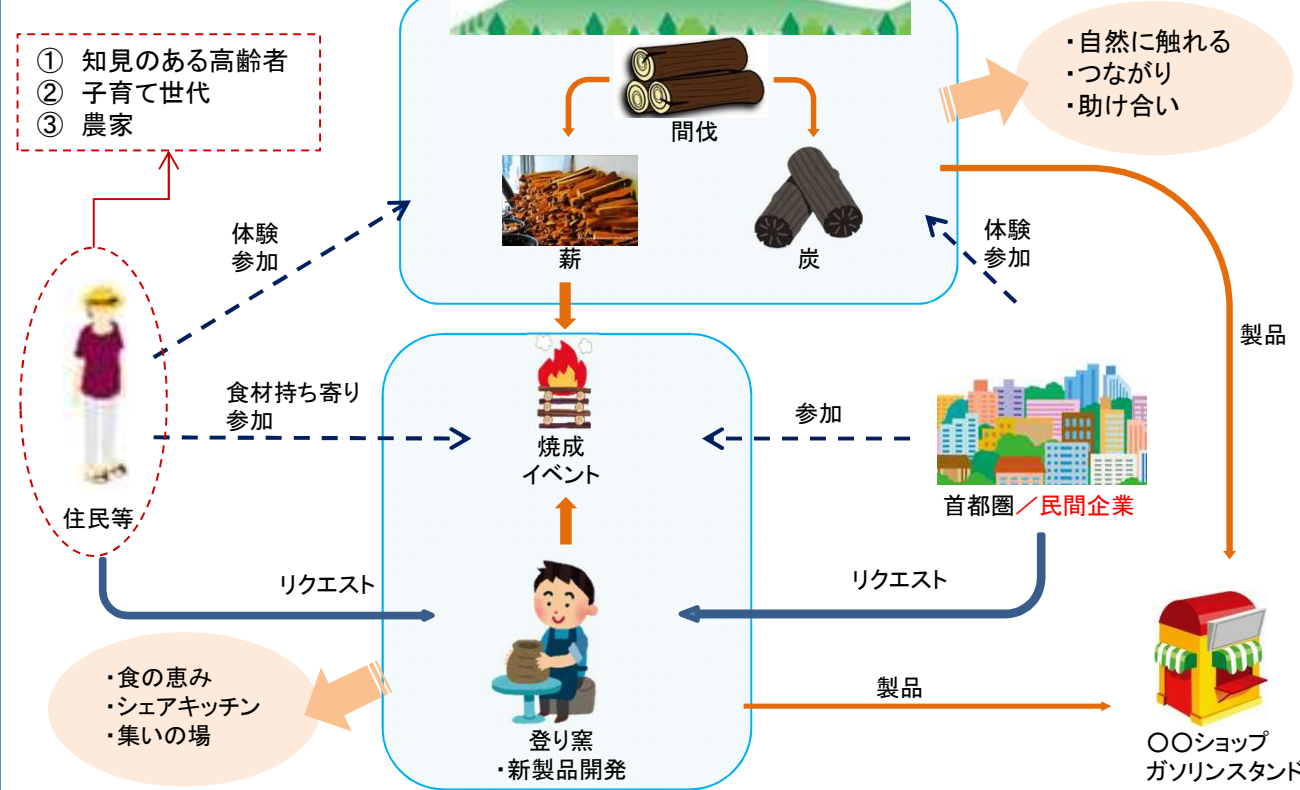
＜ライフスタイルの概要＞

利用されなくなった地域の森林資源について、登り窯を中心とした活用の仕組み「めぐみシェアクラブ」を創設し、地域内外の人たちが協働しながら、地域の恵みを地域で楽しむ暮らし

＜ロードマップ＞

1年目	2年目・3年目	4年目
<ul style="list-style-type: none"> 地域において検討会の開催 事業実施団体の創設 地域調査（所有権、規制等） 	<ul style="list-style-type: none"> イベント実施 製品試作、販売 	<ul style="list-style-type: none"> 事業サイクルの確立

＜新規事業案＞



＜政策案＞

* 規制緩和
 (市街化調整区域等)
 * イベント開催助成
 * 市有林・県有林の提供
 * 所有権情報の提供

＜技術要素＞

* 森林管理システム
 (伐採時期、搬出・運搬)
 * 情報発信
 (地域情報、参加者募集情報、
 ○〇ショップなど)